

汎用的スキルCの授業における対人基礎力向上の検討

阿部田 恭子

1. はじめに

近年、大学教育において、汎用的スキルの教育が進められている。学問や職業を問わない能力の重要性が指摘されている。汎用的スキルは、ジェネリックスキルとして広範囲にわたる。ジェネリックスキルとは、日常生活、社会生活を送るうえで必要とされる能力であり、あらゆる職業を超えて活用できる汎用的技能である（坂井・中平・北島，2016）。中央教育審議会（2011）では基礎的・汎用的能力と示されている。このスキルは社会でどのような場面においても必要とされる汎用的な能力であることから、大学教育においてこれらのスキルを身につけさせるために教育の質的転換を図る必要性があると述べられている（谷本，2015）。ジェネリックスキルを日本語に訳すと「汎用的能力」つまり、「汎用的スキル」となる。本研究では、包括的に「汎用的スキル」と称する。

ジェネリックスキルの獲得には従来行われてきた一方的な教授学習ではなく能動的な学習形態であるアクティブラーニングが適切であると考えられている（安田・野口・直井，2016）。教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である（文部科学省，2012a）。アクティブ・ラーニングは知識（の習得）を排除したり軽視したりするものではなく、知識習得の過程や習得した知識を通じて様々な力が身につくような学習環境を提供し、学習活動を促進するという役割がある（山田，2017）。

茨城キリスト教大学（以下、本学）では全学教養科目として2024年4月から汎用的スキルの教科を実施している。本学では汎用的スキルA、B、C3科目に分けて開講している。

汎用的スキルA：対自己基礎力（感情抑制力、自信創出力、行動維持力や思考力など）

汎用的スキルB：対課題基礎力（課題発見力、計画立案力、実践力など）

汎用的スキルC：対人基礎力（コミュニケーションを中心とした親和力、協働力、統率力など）

汎用的スキルCの2024年度のシラバスは以下である。「汎用的スキルC（対人基礎力）の授業では、コミュニケーションスキル、親和性、協働、統率力などに焦点をあてて学ぶ。コミュニケーションは、良好な人間関係を構築するのに大切なスキルであり、コミュニケーションスキルは訓練することによって上達する。コミュニケーションスキルを身につけることで、自己表現力が向上し、他者との理解が深まり、円滑な人間関係にも役立つ。コミュニケーションスキルを磨くことは、個人の成長だけではなく組織やコミュニティ全体の発展に寄与するであろう。授業はペアワーク、グループワークで進める。」

本研究では筆者の担当した「汎用的スキルC：対人基礎力」の教育実践研究を行った。

授業を通して学生の対人基礎力に対する考え方や行動の変化，そして授業の形式による対人基礎力の向上に関して検討をした。また，今後の展望について述べる。

2. 方法

2.1 対象者と実施時期

対象者は2024年4月に入学した1年次生であり，授業は2024年4月から2024年7月に実施された。アンケート調査は，授業第1回の始まる前と第15回授業の終了後に実施した。汎用的スキルCクラスは2クラスに分かれており，対象学生は，Caクラス17名（男子11名，女子6名），Cbクラス18名（男子9名，女子9名），ただし，Cbクラス内女子1名は第1回授業のみ出席，他計14回は欠席のため分析からは除外した。

アンケート調査の実施にあたり，倫理的配慮について，回答は任意であり，氏名は書かず携帯番号の下4桁の記載を求めた。また，アンケート調査の結果は科目評価とは無関係であること，結果は統計処理をし，個人が特定されないで公表することを事前に説明した。

2.2 授業の構成

授業の構成を表1に示す。

表1 授業の構成

第1回	授業の進め方	アンケート回答 自己紹介
第2回	コミュニケーションの基本1	自己開示 あいさつ
第3回	コミュニケーションの基本2	言語・非言語コミュニケーション
第4回	コミュニケーションの基本3	共感
第5回	伝えるスキル1	アサーション
第6回	伝えるスキル2	意見を言う わかりやすく説明する
第7回	伝えるスキル3	相手の立場に立って伝える
第8回	人を動かす(統率力)	リーダーシップ
第9回	チームビルディング(統率力)	マシュマロチャレンジ
第10回	企画する(第10回以降は協働)	問題提起
第11回	資料を準備する1	資料検索 役割分担
第12回	資料を準備する2	資料作成 スライド作成
第13回	資料を準備する3	スライド作成 発表練習
第14回	発表する	発表
第15回	授業のまとめ	まとめ アンケート回答

2.3 授業の形式

アクティブ・ラーニングの授業を取り入れ、グループワークで行った。第1回から第4回を1回目のグループ、第5回から第9回を2回目のグループ、第10回から第14回の3回目のグループとした。グループメンバーはランダムに分けられ、なるべく初顔合わせとなるようにグループ編成を心がけた。ただし、第1回と第15回は自由着席とした。第2回からは前回の振り返り、今日の到達目的、今日の課題の提示、課題は授業後に内容を提示するのではなく、その回のレクチャー前に提示しレクチャーとワークに集中して臨むように促した(表2)。毎回の授業では、その回に沿ったワークをグループ内で実施した。ペアワーク、グループ内4～5名によるワーク、ロールプレイも導入した。

表2 授業の流れ

前回授業のふりかえり	5分
大福帳,あるいは前回提出の課題のふりかえり	5分
今回の授業について	5分
今回の課題の提示	5分
レクチャー	10分～15分
ワーク	15分～20分
ワーク内容の全体共有	10分
大福帳 自分→グループ内で回して書き込む	10分
今回の課題に取り組む	20分

2.4 欠席者への配慮

欠席者へのアーカイブ動画として、授業動画を録画し茨城キリスト教大学ICポータルの該当回にアーカイブ配信を行った。

2.5 授業のふりかえり

2.5.1 大福帳

大福帳とは、学生と教員とのコミュニケーションツールである。A4判の厚紙に枠を印刷したものであり、学生は毎回の授業後に大福帳の5行程度にコメントを書き入れる(図1, 図2)。自分のコメントを書き入れた後、グループの中で一言のみメンバーからのコメントを書き入れ、教員に渡す。教員はそのコメントに返事をして次の授業に返却をする。大福帳のやりとりによって、出席促進、積極的な授業態度、講師と学生との信頼関係の形成、授業内容の理解と定着などといった効果があることが確認されている(向後, 2006)。授業の出欠も大福帳の提出をもとにして出欠入力を行った。そして、本研究では教員からの返事を「手書き」と「スタンプ」を交互にして、どちらの方法が学生の好みかを検証した。

大 福 帳			
科目	学年	学籍番号	名前
国	あなたが感じたこと、考えたこと	メンバーの名前	メンバーからのメッセージ
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			

図 1 大福帳（表）

国	あなたが感じたこと、考えたこと	メンバーの名前	メンバーからのメッセージ
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

図 2 大福帳（裏）

2.5.2 課題

各回の授業のふりかえりをする目的で、各回の課題として300字程度の文章をまとめて授業時間内に提出することとした。たとえば、第2回課題は「第2回の授業で最も印象に残ったことをその理由とともに書いてください」、第5回課題は「アサーションはどんな場面でどのように使えそうですか。具体的に書きましょう」などである。課題の評価はルーブリックに沿って採点された。

2.6 質問紙調査

質問は汎用的スキルC aクラス、C bクラス受講者35名を対象に、授業前後（以下、PreとPost）で自由記述と性格特性尺度の質問紙調査を実施した。Preは第1回授業の始まる前に性格特性尺度、Postは第15回授業のまとめの後に授業時間内で性格特性尺度と自由記述を実施した。

2.6.1 自由記述

自由記述の内容を表3に示す。

表3 自由記述の内容

-
1. 初対面の人にうまく自己紹介できるようになりましたか。
(1) はい (2) いいえ それはどうしてですか。
 2. 他の人が話しているところに気軽に入っていけるようになりましたか。
(1) はい (2) いいえ それはどうしてですか。
 3. クラス内の友人と仲良くなれましたか。
(1) はい (2) いいえ それはどうしてですか。
 4. グループワークをやって自分で良かったと思う点を書いてください。
 5. グループワークをやって自分で良くなかったと思う点を書いてください。
 6. 汎用的スキルC 対人基礎スキルの授業は、今後どのような場面で活用できそうですか。
 7. 汎用的スキルCのどんなところが面白かったですか。
 8. 汎用的スキルCのどんなところが面白くなかったですか。
 9. 大福帳のどんな点が良かったですか。
 10. 大福帳のどんな点が良くなかったですか。
 11. 大福帳の教員からのリアクションは、スタンプが良いですか、手書きがよいですか。
 12. 汎用的スキルC 対人基礎スキルを受講して、あなたの行動の変化を具体的に書いてください。
 13. 汎用的スキルC 対人基礎スキルを受講して、あなたの考え方の変化を具体的に書いてください。
 14. 協働の授業の中で良いと感じたことを書いてください。
 15. 協働の授業の中で難しく感じたことを書いてください。
 16. 第14回の発表に取り組んだことで、良いと感じたことをあげてください。
 17. 第14回の発表に取り組んだことで、難しく感じたことをあげてください。
 18. 授業の感想など自由に書いてください。
-

2.6.2 性格特性尺度

性格特性の関連を測定するために、日本語版Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) (小塩ほか, 2012) をPreとPostで実施した。TIPI-Jは、外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性の5因子10項目からなる。1 全く違うと思うから7 強くそう思うの7件法である。外向性は活発さや明るさ、ポジティブな感情の強さを反映する。コミュニケーション能力のことを指すわけではない。協調性はやさしさや人を許す寛大さ、勤勉性はまじめで計画的、熱心に活動に取り組む傾向を反映する。神経症傾向はネガティブな感情の揺れ動きの大きさを反映し、開放性は関心の広さを反映し、対人関係上オープンなことを意味するのではなくさまざまな活動や現象を受け入れる傾向という意味である (小塩, 2020)。

3. 結果

3.1 授業出席率

大福帳をもとに出欠入力を行った。体調不良などで1～2名程度の欠席者がいた。全15回を通してほぼ94%～100%の出席率であった。

3.2 有効回答数

有効回答数は、C aクラス16名(男子10名, 女子6名), C bクラス18名(男子9名, 女子9名)の計34名であった。

3.3 自由記述による結果

自由記述18問のうちコミュニケーション, 学習に関する考え方や行動の変化をみるため, 問4, 問9, 問11, 問12, 問13に焦点をあて, それぞれグループワーク, 行動の変化, 考え方の変化, 大福帳, 今後の活かし方を分析対象として, KJ法(川喜田, 1967)で分析を行った。まず記述回答をグルーピングし表札をつけ, さらに関連性の高いグループ同士をグルーピングし大表札をつけ図解化し, 図解から叙述化した(図3, 図4, 図5, 図6, 図7)。

3.3.1 グループワーク(問4: グループワークをやった自分で良かったと思う点を書いてください)

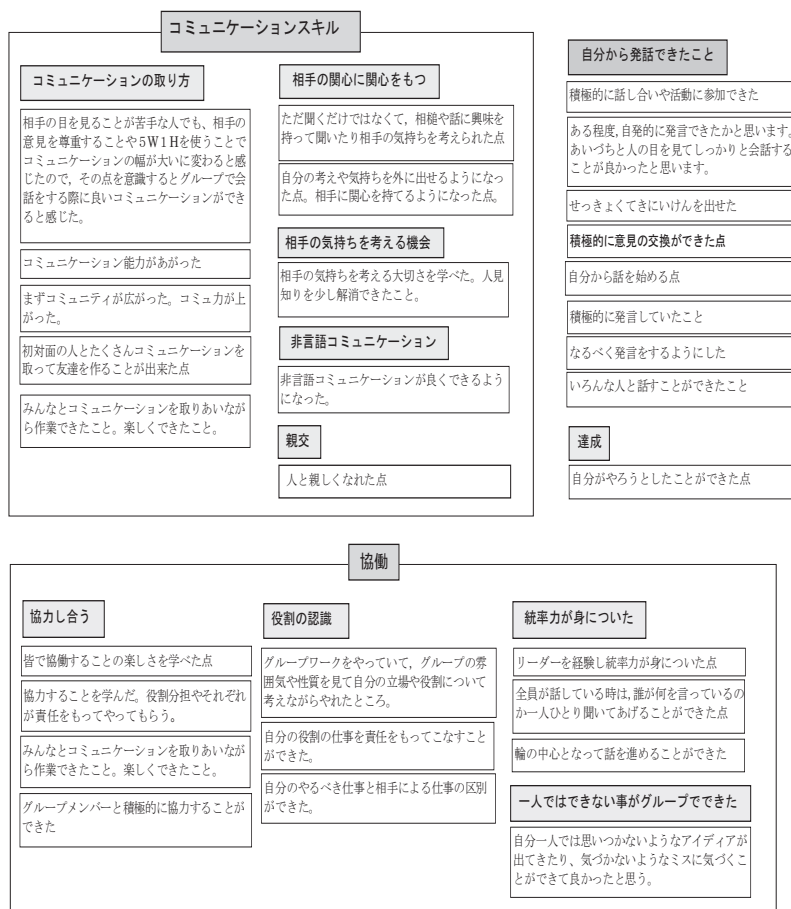


図3 グループワークの図解化

グループワークに取り組んだことにより、相手の気持ちを考える大切さを知り、相手の関心に関心をもてるようになった。コミュニケーションの取り方も、あいづちなどの非言語コミュニケーションを実践することにより、グループ内で会話をする時にもみんなとよいコミュニケーションができると感じていた。自分から積極的に発言することができるようになった。そして、グループワークによりグループ内のみんなとコミュニケーションをとりながら協力することができた。グループ内での役割分担を認識し自分の役割に責任をもってこなすことができるようになった。一人ではできない事がグループワークならできる体験もした。このように、グループワークを通して協働することも学べた。

3.3.2 行動の変化（問12：汎用的スキルC対人基礎スキルを受講して、あなたの行動の変化を具体的に書いてください）

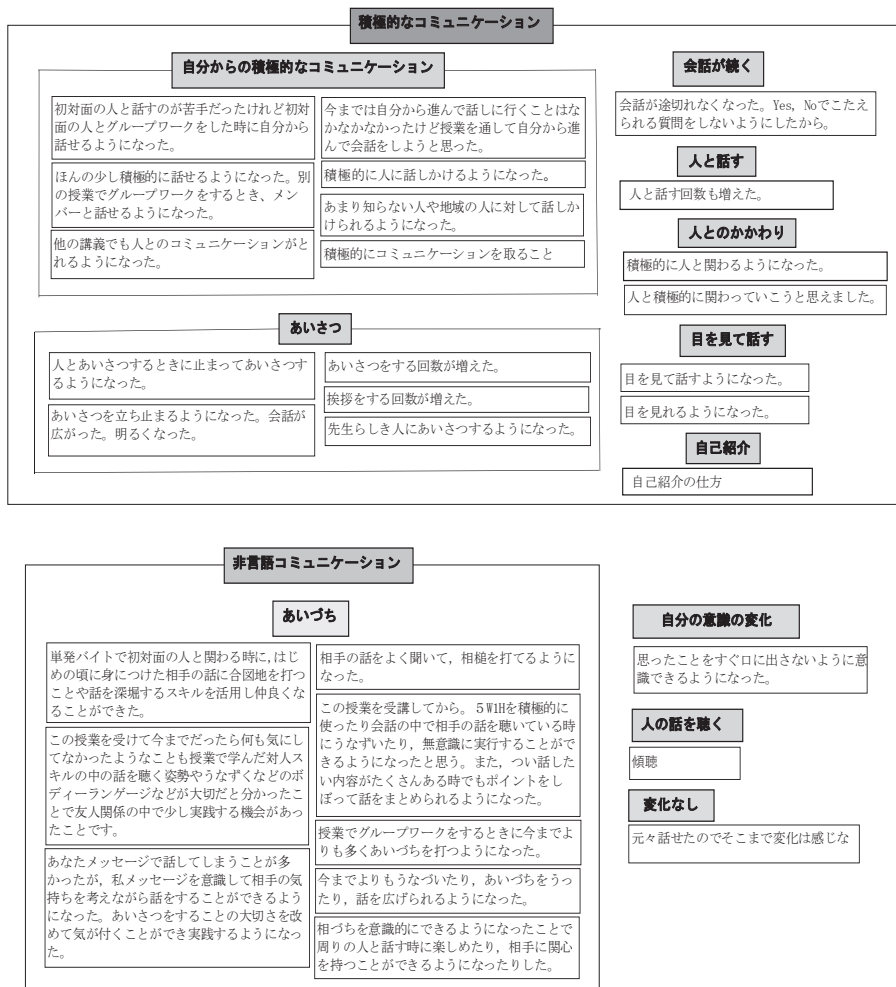


図4 行動の変化の図解化

今までは自分から進んで話に行くことはなかったけれど授業を通して自分から進んで会話をしようと思った。具体的には挨拶をする回数が増え、会話が続くようになった。そして、人と話す回数も増え、相手の目を見て話せるようになった。このように、積極的に人と関われる行動の変化が見られた。

非言語コミュニケーションにおいても、相手の話をよく聴いてうなずいたり、あいづちを打てるようになり、話を広げられるようになっていった。さらに、自分の中で思ったことをすぐ口に出さないように意識する行動の変化もあった。

3.3.3 考え方の変化（問13：汎用的スキルC対人基礎スキルを受講して、あなたの考え方の変化を具体的に書いてください）

コミュニケーションスキルによる他者への配慮	
相手の立場を考える 相手はこういう価値観をもっているんだと考えるようになった。なぜこの人は怒っているのか？など考えた時。 話を聞くときには、自分ではなく相手の立場に立って聞くことが大切であると分かり、ヨコの関係で話をしていきたいと思った。 話を続けてくれない人にイラッとするのが以前は多かったが、その人のペースがあるんだなと思えるようになったこと。 この人はこう思っているのかな、と考えをめぐらせながら話している最中でも考えられるようになった。 今までコミュニケーションのスキルは大事だとかんじていたけど、共感や傾聴などのスキルもあり、もっと大事だと思えた。 相手の意見を尊重することを最優先に考えられるようになった。	気遣うこと ささいなことでも、気遣いをすることがとても大事だと思った。 自分の話も聞いてもらうことも大事だと思うので、相手とのキャッチボールがうまくできるように意識するようになった。 自分から話しかけることができる 自分はコミュニケーションが苦手のままだと思っていたが、それはスキルを知らないだけであって、そんなことはなく、自分から話したりできるんだと考えることができるようになった。
自分の意見を言う 自分の意見もなるべく正直に言おうと思った。(その方が良いものができる) 自分から積極的に発言してみようと思えました。	共感する 相談にのるとき、きめつけずに、とりあえず話を聞き、共感し傾聴できたと思う。
人の意見の聴き方 今まで、多数の意見を取り入れれば良いと思っていたけど、少数派の意見も聞いて物事を考えられるようになった。	話の伝え方 会話の中で否定的に物事に言うのではなく、肯定的に言うといいと考え直せた。 会話の意しきの変化 コミュニケーションの中で聞き方や伝え方によって相手の受け取り方がまったく違ってしまふことが分かった。だから、人と話すときは聞き方や伝え方をきちんと考えられるようにしたい。
	目線 前より自分の目線を意識して生きるようになった。

図5 考え方の変化1

自己変容	
苦手意識の変化 人と関わることは苦手だと考えていたけどそんなに苦手意識を持たなくても良いと思えるようになった。	思い込みの変化 知らない人と話すことは難しいことだと思い込んでいたが、自分なりに注意すべき点を直すことができた。
性格の変化 人見知りでもだんだん人と話すことで変化が起きる。	人と接することは私には向いていないと思っていたけどこの授業で色んな人と話してみても人と接するのは楽しいと思うようになった。
怖がらなくてよい 人とのコミュニケーションは難しいが、怖がる必要はない。表情、声のトーン、言葉づかいなど基本的なことを意識すれば楽しくコミュニケーションがとれる。 怖がらずに初対面の人と話せる様になった。 色んな人に気軽に話しかけても大丈夫ということ。	踏み出す まず一步踏み出してみようと考えられるようになった。
グループワークでリーダーになることを避けていたけれど、リーダーを引き受けてもいいと思えるようになった。	人が好きになる 人が好きになった。 人を愛するようになった。
接し方の工夫 この授業を受講して、人と接する時に、とても工夫がいるのだと思いました。世の中はこれまでよりもっと複雑で多様になっていくと思うので、このような考え方を持つことに対する意義を感じられるようになりました。 どうすれば気持ちよく挨拶したり話せるか自分なりに考えた。	社会に出た時のために 社会に出たときに初対面の人とも上手くコミュニケーションをとるように頑張ろうと思うようになった。
	変化なし 普段から人が何を考えているのかを考えているからあまり変わらない

図6 考え方の変化2

話を聴く時は相手の立場に立って聴くことの大切さがわかるようになり、相手の意見を尊重するようになった。また、自分の意見を言う大切さや人の意見の聴き方にも注意して物事を考えるような変化が見られた。話の伝え方では、会話の中で伝え方によって相手の受け取り方が違うこともわかり、相手への伝え方を考えられるようになった。コミュニケーションスキルの実践により自身の考え方に変化があった。

人と関わるのが苦手、人と接することは向いていないと思っていた。しかし、授業内でいろんな人と話す機会があったことにより苦手意識も変化していった。さらに、人とのコミュニケーションは怖がらなくてもよいと考えられるようになり、どうしたら気持ちよく話せるかなど人との接し方の工夫も考えられるようになった。人が好きになり、まず一步踏み出してみようと考えられるようになった。このように、授業を通して自己変容が可能となった。一方、普段から人が何を考えているのかを考えているからあまり変わらないといった変化なしの学生もいた。

3.3.4 大福帳（問9：大福帳のどんな点が良かったですか）

共感	学生同士の親和性
共有 授業で思ったところを皆に共有するところ	コメントがもらえる グループメンバーからのメッセージが見れた点 同じチームのメンバーからコメントをもらえる点。嬉しい。 みんなの意見が知ることができる。メッセージがもらえる ほかの人からメッセージがもらえること グループのみんなからメッセージをもらえたところが良かった グループメンバーからコメントを書いてもらえる所 友達からのメッセージでほめられたりしたときに嬉しかった みんなの声が聴けるところがよかったです。 友達からコメントをもらえるところ メンバーからのメッセージあるので中も深まった 皆からコメントをもらえてうれしい グループ内の友人からコメントを頂けるところ みんなのメッセージがみれる 他の人から一言もらえること みんなの字体が面白くて好き
他の人の考えを知れる グループ内の人が授業を経たどのようなことを感じているのか知って、同じことを思っていたと知ると嬉しく感じた。また、自分の思っていることに対してコメントしてくれるので、とてもよいコミュニケーションの1つであると感じた。 グループの人たちがどう思っているのか知れるところ 班の人の考えが知れたり、びっくりマークや顔文字をつけて交流できたところ 前に何をしたら見返せるところ。毎回振り返りをすることで覚えられる。 回ごとに振り返ることができ、グループのメンバーとも一言ずつ交流ができる 自分の感じたこと、グループのメンバーの感じたことを共有できた点 グループのメンバーと意見交換できたところ今の自分の気持ち、考えを知ることができたところが良かった。	
名前が覚えやすい 人の名前を覚えやすかった点。班の人の意見が聞けた点。	
ふりかえり 授業の振り返り 授業で振り返ることができた 毎回やった事をふり返ることで、先週やったことなどをふりかえることができたところ 毎時間ふりかえりをすることができました その日の振り返りをみんなと共有することが出来る点 メンバーからのメッセージでメンバーの気持ちを知ることができる点。その日に何をしたら振り返ることができる点。	教員との距離感 教員からのリアクション メッセージが書いてあるとうれしかったです！ 手書きの方がうれしい。先生の負担が大きいので考えものである。 見てくれたんだと感じることができる

図7 大福帳の図解化

大福帳を記入することにより、グループ内のメンバーから授業を経たどのようなことを感じているのか知ることができた。大福帳は毎回の授業の振り返りができ、自身の振り返りと同時にグループ内のメンバーとも振り返りの共有ができた。とくにメンバーからコメントをもらえると嬉しかった。また、教員からの大福帳へのリアクションは手書きであると

先生から見てもらっていると嬉しく感じた。

3.3.5 今後の活かし方（問6：汎用的スキルC対人基礎スキルの授業は、今後どのような場面で活用できそうですか。）



図8 今後の活かし方の図解化

社会人になった時、就職活動、大学生活の中で、そして新しい人と出逢って話をするときにも対人スキルを活かせる。グループワークに限らず日常生活の中で活用できると感じた。このように、対人基礎スキルは、社会の中で人との関わる全ての場面で今後活かしていけると思えた。

3.3.6 その他の質問項目に関して

質問 1, 質問 2, 質問 3, 質問 5, 質問10, 質問14, 質問15, 質問16, 質問17の抜粋の一部を示す。

- ・質問 1 「初対面にうまく自己紹介できるようになりましたか。」では、(1) は33名 初対面の人と会話をしてみたい気持ちをもった (2) いいえ 1名 はずかしい
- ・質問 2 「他の人が話しているところに気軽にはいっていただけるようになりましたか。」では、(1) はい20名 いままでは急に入っていったら何か言われるのではないかと思っていたが自信をもって何を思われてもかまわないぐらいの気持ちではいっていただけるようになった。(2) いいえ14名 人と人が話している時に入ってしまうと会話をさえぎってしまう。
- ・質問 3 「クラス内の友人と仲良くなれましたか。」では、(1) はい34名全員 授業を通して話したり, 活動したりして自然に仲良くなることができた。
- ・質問 5 「グループワークをやって自分で良くなかったと思う点を書いてください。」では、最初のころは人見知りをしていた。グループの意見をすり合わせするのが少し大変だった。
- ・問10 「大福帳のどんな点がよくなかったですか。」では、書くスペースが少なかった。
- ・問14 「協働の授業で良いと感じたことを書いてください。」では、グループのみんなと協力しあい協力できた。仲間と協力して何かを達成することの大切さが分かった。会話をすることによって、仲間意識が生まれ協力して活動することができた。
- ・問15 「協働の授業で難しいと感じたことを書いてください。」では、個人で意識が違うので、やる気にムラが生じてしまった。人それぞれ違う意見をもっているの、これからどう進めていくのかなどを決めるのが大変だった。
- ・問16 「第14回の発表に取り組んだことで、良いと感じたことをあげてください。」では、伝えたいことを分かりやすくスライドにまとめることができた。人前で話す良い経験になった。「人に伝える」ために何ができるか考えることができた。自分の思ったことや伝えたいことを言葉を通して伝えることを実践的に学べた。
- ・問17 「第14回の発表に取り組んだことで、難しく感じたことをあげてください。」では、発表のアドリブが難しかった。臨機応変に対応できる力を身に着けたい。時間の制約がある中で人前で話すことや準備したことを最大限発揮するところが難しかった。

以上が記述回答の抜粋から得られた。

3.4 性格特性尺度による評価

性格特性において、PreとPostで対応のあるt検定を行った。性格特性 5 項目において有意差はみられなかった (表 3, 表 4, 表 5)。

表3 全体の記述統計 ($n=34$)

	外向性	協調性	勤勉性	神経症傾向	開放性
Pre(<i>SD</i>)	3.91(0.84)	4.07(0.68)	3.97(0.72)	3.88(0.92)	4.25(0.69)
Post(<i>SD</i>)	3.99(0.66)	3.94(0.80)	4.00(0.82)	3.94(0.91)	4.34(0.69)
<i>t</i> 値	0.44(<i>n.s.</i>)	1.08(<i>n.s.</i>)	0.18(<i>n.s.</i>)	0.45(<i>n.s.</i>)	0.83(<i>n.s.</i>)

表4 男子学生の記述統計 ($n=19$)

	外向性	協調性	勤勉性	神経症傾向	開放性
Pre(<i>SD</i>)	3.89(0.78)	4.00(0.62)	3.94(0.80)	4.00(0.82)	4.25(0.65)
Post(<i>SD</i>)	4.22(0.51)	3.81(0.84)	3.75(0.77)	4.03(0.72)	4.36(0.60)
<i>t</i> 値	1.30(<i>n.s.</i>)	1.07(<i>n.s.</i>)	0.78(<i>n.s.</i>)	0.17(<i>n.s.</i>)	0.92(<i>n.s.</i>)

表5 女子学生の記述統計 ($n=15$)

	外向性	協調性	勤勉性	神経症傾向	開放性
Pre(<i>SD</i>)	3.94(0.63)	4.16(0.68)	4.00(0.61)	3.75(1.00)	4.25(0.73)
Post(<i>SD</i>)	3.72(0.61)	4.09(0.73)	4.28(0.79)	3.84(1.07)	4.31(0.79)
<i>t</i> 値	1.44(<i>n.s.</i>)	0.37(<i>n.s.</i>)	1.34(<i>n.s.</i>)	0.44(<i>n.s.</i>)	0.31(<i>n.s.</i>)

4. 考察

自由記述回答をもとに分析をした結果、グループワークに取り組んだことより相手の気持ちを考える大切さを知り、相手の関心に関心をもてるようになった。これはグループ活動の中で学生同士のコミュニケーションをとる練習と実践がうまく機能したと言えよう。そして、グループ内で協力し合い、自分の立場や役割を認識できるようになったことから協働していくことも体験できた。グループワークをすることにより、小さなコミュニティができ、その中でコミュニケーションスキルを磨く練習ができたと考えられる。

今まで自分から進んで話に行くことはなかったけれど、授業をとおして自分から進んで会話をしようと思ったという行動の変化の記述回答から、「意見を言う」「わかりやすく説明する」「相手の立場に立って伝える」授業を通じて、積極的に会話をしようとする姿勢を持つようになったのだろう。ひとり一人が発言する機会を増やすことで自分の主張もできるようになっていった。そして、授業内で積極的に発言する練習を継続したことから発話に対する積極性も高まったと考えられる。

自分の意見を言う大切さや人の意見の聴き方にも注意して物事を考えるようになった。相手の意見を尊重するようになったという考え方の変化の記述回答から、学生同士の間で他者への配慮を実践しようとする姿勢が見られた。コミュニケーションスキルの授業内での実践、日常生活での実践を繰り返し行っていたことで考え方の変化が示された。

大福帳の活用では、グループメンバーの他の学生がどのような考え方をもっているのか大福帳のコメントから感じ取れたという記述回答から、授業内容の振り返りや学生間の親和性が高まったことが示された。また、教員からのリアクションは手書きの方が見てくれて嬉しいと感じていた。この手書きコメントに対する学生の反応から、手書きの教員からのリアクションによって、教員との距離感が縮まり教員を身近に感じる事ができたと考えられる。また、教員が大福帳を通じて学生の理解度を確認することができ、授業内の理解と定着、そして出席率も高かったことから大福帳は出席促進にも寄与したと言えるだろう。これらのことから大福帳は、学生同士ならびに教員とのコミュニケーションツールとしての有用性が示された。

今後の活かし方では、汎用的スキルC：対人基礎力は日常生活の中で活用できると感じ、さらに大学生活の中や社会人になった時、就職活動に活用できそうであるという記述回答から、汎用的スキルC：対人基礎力は学生の将来にわたる成長に寄与することが期待できる。これは、授業内でのグループワーク、大福帳のやりとり、グループ内での協働の中で親和力も養成されてきたと考えられる。

性格特性については有意差がみられなかった。これは短期間での変化や対象者数の少ないことが影響している可能性があり、性格特性の変化は長期的な変化を見ないと確実な評価は難しいと考えられる。しかし、Postの結果では開放性の平均値のわずかな上昇がみられた。開放性は対人関係上オープンなことを意味するのではなく、さまざまな活動や現象を受け入れる傾向という意味である（小塩, 2020）。つまり、授業内でのペアワーク、グループワーク、ロールプレイなどを通して、さまざまな活動が受け入れられた傾向を示していると言える。

以上見てきたように、汎用的スキルC：対人基礎力の授業の形式を通して、コミュニケーションスキル、親和力、協働の向上がみられた。良好な人間関係を構築するのに大切なコミュニケーションスキルの基礎を学び、グループワークの中で練習を重ねていくことで対人基礎力が身についたと言える。さらに、コミュニケーションスキルを身につけることで、自己表現力が向上し、他者との理解が深まり、他者への配慮をすることも学ぶことができたと考えられる。このことは、学生個人の成長だけではなく今後、社会での組織やコミュニティ全体の発展に寄与するであろう。

5. 本研究の限界と今後の課題

本研究では汎用的スキルCの教育実践について論じた。これにより、汎用的スキルC：対人基礎力の教育実践の分析方法から実践による動向を調査することができた。授業回数15回の中でコミュニケーション、親和力、協働の授業実践から日常への実践につなげることが可能であった。しかしながら、統率力に関しては授業回数に対して練習と実践の時間が少ない結果となり、限られた授業時間内で統率力の育成が十分に確保できなかった。今後は、統率力を含む対人基礎力の育成をしていくことが望まれる。

6. 結論

本研究では、「汎用的スキルC：対人基礎力」の教育実践研究を行った。授業を通して

対人基礎力が向上したのか、そして今後の展望について述べた。その結果、次のことが示された。

1. 汎用的スキルC授業の形式を通して、コミュニケーションスキルの向上が見られた。
2. グループワークや大福帳が大学生の親和力の向上に寄与した。
3. 汎用的スキルCの授業内容を習得することにより対人基礎力が向上し、日常生活のみならず、学生の将来の社会における有用性に寄与する可能性がある。

引用文献

- 中央教育審議会 (2011). 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」＜抜粋＞.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1303768.htm
 (2024/09/13閲覧日)
- 川喜田 二郎 (1967). 『発想法』 中央公論社
- 向後 千春 (2006). 大福帳は授業の何を変えたか 日本教育工学会研究報告書
 マシュマロチャレンジ <http://www.marshmallow-challenge-japan.org/> (2024/09/11閲覧日)
- 文部科学省 (2012a) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～ (答申) 用語集
www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf
 (2024/09/13閲覧日)
- 小塩 真司・阿部 晋吾・カトローニ ピノ (2012) 「日本語版 1 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み」パーソナリティ研究, 21, 40-52.
- 小塩 真司 (2020) 性格とは何か よりよく生きるための心理学 中公新書
- 谷本 英彰 (2015) ダンス授業における創作活動がジェネリック・スキルに及ぼす効果—チームワーク能力に着眼して— 大阪産業大学, 21-33.
- 坂井 和貴・中平 勝子・北島 宗雄 (2016) 知識基盤社会への適応促進に向けたジェネリックスキル成長推定 情報処理学会研究報告, 2, 1-6.
- 山田 剛史 (2017). 大学教育におけるアクティブ・ラーニングの意義と課題 JACET Kansai Journal, 19, 1-20.
- 安田 孝・野口 理英子・直井 玲子 (2016). アクティブラーニングの反復がジェネリックスキルの変化に及ぼす影響 —Project-based Learning型授業を用いた検討— 松山東雲女子大学人文科学部紀要, 24, 43-56.

付 録



図9 「協働」のグループワークの様子



図10 「協働」の発表の様子

Study of Improving Basic Interpersonal in Generic Skills C Classes

Kyoko Abeta

Aims: This study aimed to changes students' attitudes and behaviors toward generic skills (basic interpersonal skills) and improve of generic skills through the class format. **Methods:** Pre- and post-questionnaire survey was conducted. And the class format used was active learning, consisting of lectures, group work, and general sharing. The students were asked to submit an assignment and complete a "Daifuku-Cho" as a class reflection. **Results:** Free-text responses were analyzed using the KJ method. By working in groups, students learned the importance of considering the feelings of others and became more interested in the concerns of others. A behavior change was observed in their ability to actively engage with others, and they came to understand the importance of understanding from the other person's perspective and began to respect the opinion of others. Additionally, they began to pay attention to the importance of expressing their own opinions and listening to other's opinions. Daifuku-Cho allowed them to look back on each class and share their reflections with group members and their own reflections. **Conclusion:** Communication skills improved with the General Skills C class format and group work and Daifuku-Cho contributed to the improve affinity among university students. The acquisition of the General Skill C class content improved basic interpersonal skills, which may be helpful not only in daily life but also in the students' future lives.

Keywords: Communication Skills, Affinity, Collaboration, Leadership Skills